



バックナンバーはこちらから

幸手を元気に！

住みたくなるまちづくりへ

Vol.14 令和6年8月発行



坂本達夫

幸手市議会議員

令和6年6月 幸手市議会一般質問から

中川崎、下川崎の道路事情

Q.

坂本質問：

中川崎、下川崎の市道は狭く、交通量が多い。特に朝は、長倉小学校、西中学校へ通う子供たち、自転車で久喜方面に向かう高校生が、その狭い道を利用しています。そんな中、多くの車が「エンゼル公園」方面から「さいたま栗橋線」方面や「国道4号」方面へ通り抜けます。ここの道路は、まさに危険そのものです。

市長は、中川崎、下川崎の道路をどのように認識し、どうすることにより市民の安全が確保できると考えますか。

A.

木村市長、部長答弁：

当該地区の道路は、いわゆる生活道路として、様々な年代の方が利用していますが、車両の交通量が多く、地域外からの車両の「抜け道」として利用され、人と自転車、自動車がお互いに近距離で通行している道路だと認識しています。安全確保のために、一般的には都市計画道路「杉戸幸手栗橋線」の整備が有効と考えますが、実施時期は今後検討していきます。また、「ゾーン30」区域として広く運転者に対し意識付けを行うほか、交通ルールとマナーの周知徹底を図ります。



木村市長、部長の答弁を聴いて、坂本達夫の意見

狭くて、交通量の多い道路は危険です。毎日、細心の注意を払い、歩行者も自転車に乗る人も、車の運転手さんも安全に通行しようと心掛けています。しかし、ほんの少しの気の緩みで交通事故が発生してしまいます。

ここの道路は危険なので、私はこの問題を解決するため、都市計画道路「杉戸幸手栗橋線」を早期に整備するよう木村市長に粘り強く、訴え続けて参ります。



